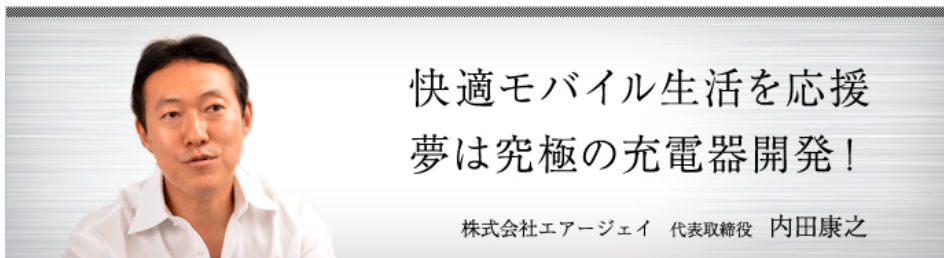


EXECUTIVE INTERVIEW

経営者インタビュー



プロフィール 千葉県出身。専門学校の音響芸術課に通いながら、様々なアルバイトを経験し、家業で馴染みのあった飲食業界へ足を踏み入れる。その後、友人の誘いを受け、電器業界に転職。8年勤めたパソコンのアクセサリ製造会社を退職する際に、クライアントの要望から起業を決意する。1999年、(株)エージェイを設立。現在、携帯電話用アクセサリの製造を手がけ、複数台同時充電器をはじめ12件の特許も取得している。

今や私たちの生活に欠かせなくなった、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器。これらをより快適に、便利に使いこなすためのアクセサリを製造・販売しているのが株式会社エージェイだ。特に充電器には強みを持ち、2台同時、3台同時に充電できる充電器では特許も取得。「アイデアの具現化が楽しい」という代表取締役・内田康之氏は、究極の「自給自足充電器」開発に向け夢を追い続けている。

特許も取得した3台同時充電器！

川崎 エージェイさんは、現代のモバイル生活には欠かせない、携帯電話用アクセサリなどを製造されているそうですね。

内田 はい、最近は特に充電器に力を入れていましてね。ちょうど携帯電話が本格的に普及し始めた頃に創業したんですよ。ちょっと、こちらを見ていただけますか。当社が特許を取得している2台同時充電器です。こちらには3台同時充電器もありますよ。

川崎 うわあ、これは便利だなあ！

内田 出張や旅行に出かける時、携帯電話やタブレット端末などのモバイル機器を、1台の充電器で同時に充電できたら便利だろうと思って開発したんです。

川崎 これがあれば、何台もの充電器を持ち運ぶ必要がなくなりますね。東日本大震災の被災地でボランティアをした際に、避難所は携帯電話の充電が大変で、被災者の方々が苦労されていたのを思い出します。

内田 実は、私もそれを知って、この充電器を3000台ほど被災地に寄付しました。宮城県の知事から感謝状までいただきましたよ。



インタビュー 川崎麻世(タレント)



複数台の携帯電話を一度に充電できる画期的な商品



車で便利なドリンクホルダータイプの充電スタンド

株式会社エアージェイ 代表取締役 内田康之

快適モバイル生活を応援 夢は究極の充電器開発！

川崎 そうだったんですね！ そういえば、内田社長は34歳で起業されたとお聞きしています。それまでのお仕事も、携帯電話関連だったのでしょうか。



内田 いいえ。もともと私は、日本工学院という専門学校の音響芸術科に通いながら、様々なアルバイトを掛けもちしていたのですが、本当に好きな仕事を探すために学校を中退。その後、親戚が経営する居酒屋の厨房で働くことにしたんです。今でいう、フリーターの走りみたいなものですね(笑)。

川崎 飲食業には、馴染みがあったんですか？

内田 父が和食店を経営していたので、子供の頃から仕込みや店内の掃除くらいは手伝ったことがあるんですよ。それもあって2007年から私も、当社とは別に神田で和食レストランを経営しています。オーガニックの緑茶をベースにしたカフェレストランなんですよ。

川崎 一度そちらもおうかがいしてみたいですね。

「あったらいいな」が発想の原点

川崎 内田社長は、どのような経緯で飲食業界から電器業界に転職されたのでしょうか。

内田 友人からこの業界に誘われたことをきっかけに、電器メーカーでテレビやビデオデッキなどの営業を始め、その後はパソコンのアクセサリを製造する会社に8年間勤めました。工学系の専門学校に通っていたこともあって電気には強かったので、異業種の転職ながら違和感はありませんでしたね。

川崎 このお仕事が向いていたんですね。その後の独立のきっかけは、なんだったのでしょうか。

内田 ある事情で会社を辞めることになり、販売店さんやメーカーさんに挨拶回りをすると、大勢の方から「うちに来ないか」と誘っていただいたんです。その中で、ある社の方が、「起業したらどうか。やるなら、うちで商品を扱うよ」と言ってくださり、初めて独立心が芽生えました。それまで、自分で起業するつもりはまったくなかったんですよ。

川崎 ありがたい言葉をかけていただいたことが、内田社長の人生に大きな影響を与えたんですね！

内田 本当にその通りです。営業冥利につきますよ。

川崎 携帯電話といえば、実はぼく、電磁波過敏症で苦しんでいた時期があるんですよ。近くで携帯が鳴るだけで吐き気がしたり気持ち悪くなったりして大変でした。原因は子供の頃、虫歯の治療で歯に詰めた金属に水銀が含まれていたためだそうで、それを取ったら嘘のように治ってしまいましたけど。当時は、高かった電磁波防止グッズを買って携帯に付けていましたね。

内田 当社も電磁波防止グッズは発売していましたが、確かにその頃はけっこうな値段がしたんですよ。端末がアナログからデジタルになって、電磁波の影響も以前より少なくなりましたが。



充電器やイヤホンのパーツなど多彩に揃う



株式会社エアージェイ 代表取締役 内田康之

快適モバイル生活を応援 夢は究極の充電器開発！

川崎 ぼくもきつと、エアージェイさんのグッズを使っていたんでしょうね！ 内田社長にとって、グッズ開発の楽しさはどんなところにありますか。

内田 私の場合は、自分の「こんなグッズがあったらいいな」が商品開発の原点。自分が作って楽しく、使って嬉しいグッズなら、必ずお客様にも喜んでいただけるはずだと考えながら開発しています。アイデアを具現化するのが楽しいので、売れる・売れないは二の次なところもありますね(笑)。

自給自足できる究極の充電器を作りたい



川崎 内田社長のお話をうかがっていると、エアージェイさんの社風についてもじっくりお聞きしたくなります。スタッフは何名くらいいらっしゃるんですか？

内田 社員が19人、アルバイトが23人ほどですね。当社は「企業は人なり」を理念に、一人ひとりが個性を発揮しながら働いて、会社を伸ばしていきたいと考えています。フランクに楽しく仕事をしているので、創業以来、退社した社員は3、4人しかいませんよ。

川崎 それは素晴らしいですね！ ス

タッフのみなさんからも、グッズのアイデアを募ることもあるんですか？

内田 はい、社員には必ず最新の携帯を持ってもらい、困ったことや、あったらいいなと思ったことを教えてもらいます。スタッフは当社の財産ですよ。

川崎 全員が開発に参加でき、楽しく働ける会社というのは最高ですよ。今後の展望が、ますます楽しみです。

内田 そうですね。実は当社の商品は、法人様からの依頼で開発するものも多いんですよ。5台同時充電器や10台同時充電器を特注で作りましたし、アミューズメント施設等に充電器を設置することも増えています。最近だと、大手ビジネスホテルチェーン店の全室に当社の充電器が採用されました。こうした法人向けの市場をもっと大きく開拓していきたいですね。

川崎 それがぼくたちのモバイルライフをさらに便利に、快適にすることにつながるのですから、頑張っていたきたいですね。期待しています！

内田 ありがとうございます。私の夢は、電気を完全に自給自足できて簡単に持ち運べる、エコの時代に相応しい充電器の開発。いつでもどこでも充電できて環境にも優しい究極の充電器を、必ず作り上げたいと思います！



:: 会社概要 ::

- | | |
|---------------|--|
| ■ 社名 | 株式会社エアージェイ |
| ■ 本社 | 〒186-0003 東京都国立市富士見台2-24-8 |
| ■ 事業内容 | 携帯電話アクセサリ・充電器の製造・販売／各種OEMの製造・販売 |
| ■ 設立 | 平成11年5月 |
| ■ 従業員数 | 40名 |
| ■ 主な取引先および販売先 | 株式会社アプライド／株式会社AEON／株式会社WILLCOM／株式会社NTTドコモ／株式会社Olympic／角田無線電機株式会社／株式会社兼松コミュニケーションズ／ケーズデンキ／株式会社コジマ／雑貨屋ブルドッグ／株式会社ストラップヤネクスト／ソースネクスト株式会社／大和無線電器株式会社／株式会社でんきち／株式会社電響社／株式会社ドン・キホーテ／株式会社ノジマ／株式会社ビー・アップ／株式会社ビッグカメラ／株式会社光通信／株式会社ヤマダ電機 他 |